

第12回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年2月13日(木) 19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 中澤哲(平群北小)、大西・阿彌・圓山(飛鳥小)、樋口(平城西小)、三木(都跡小)、島(郡山西小)、高良(筒井小)、岩井(鳥見小)、河野(附属小)、吉田(附属中)、後藤田(大阪成蹊大)
- 藤原・奥平・東尾(学生)
- 中村・北村・中澤(奈良教育大学)

◇内容

1. ESD学習指導案・実践報告の相互検討

(1) 夏草ー「おくのほそ道」から 中学3年生国語科：奥平さん

- ・今の自分の旅のイメージと当時の旅のイメージ
- ・内容理解 平泉場面
- ・おくのほそ道のエピソード
- ・未来へのつなぎ方

過去から現在にいたるまで変わらないものを学ぶことで、自分との未来へのつながりを意識させたい。

芭蕉の句からだけでは「感じる」までで終わる。それをアウトプットにつなげてはどうか。

- ・旅に対するイメージにおける自己の変容をアウトプットする。
- ・自然と人の営みから無常観について学習する。
芭蕉の前に自然は残っているが人々の営みは残っていない。はかなさ。
- ・感じ方の比較、共有、互いに捉え方を交流するのがいい学習になる。
- ・世代間の公正を大事にしたい
- ・古典を学ぶ意義 国語学習として、歴史学習として、時代を超えた人間の共有する思い(人を思う気持ち) → 人間理解

(2) 飛鳥スマイルキッズ 小学6年生総合的な学習の時間：阿彌先生

- ・今までお世話になった方を笑顔にする
- ・国語科「町の幸福論」住民たちが主体的に町づくりに取組むこと、未来のイメージをもつコミュニケーションデザインが必要。

- ・「奈良」や「飛鳥」のために自分たちは何ができるだろうか。

観光コース よさを伝えよう

環境コース ただの道にゴミが多いことに気づいた ポイ捨て禁止のポスターの作成

スマイルコース 幼稚園児を笑顔にする活動



- ・活動を通じて感じたことを交流する。喜んでもらえる
と達成感がある。
- ・よりよい飛鳥のために大事なことは何だろう
こんな町になったらいいなあ（他人事） →
「飛鳥」の一員として何ができるか（自分事）
- ・自分事になっていったところがいい
- ・ボランティアを自分の幸せにしている人との出会いは、
子どもを変えるきっかけになる。



- ・地域や地域の人とつながりをもつことが大切だと言い出した。つながっていなかったことを自覚した
ことの裏返し。教員が想定していなかった子どもの変容だった。
- ・町の幸福論の2つが学習の終末にもあらわれているのが、よい。
- ・価値観の変革は行動から、でもよいのでは。

2. SDGsを踏まえたESDの展開：中澤静男

奈良教育大学 中澤 静男

1. ESDとSDGsの関係

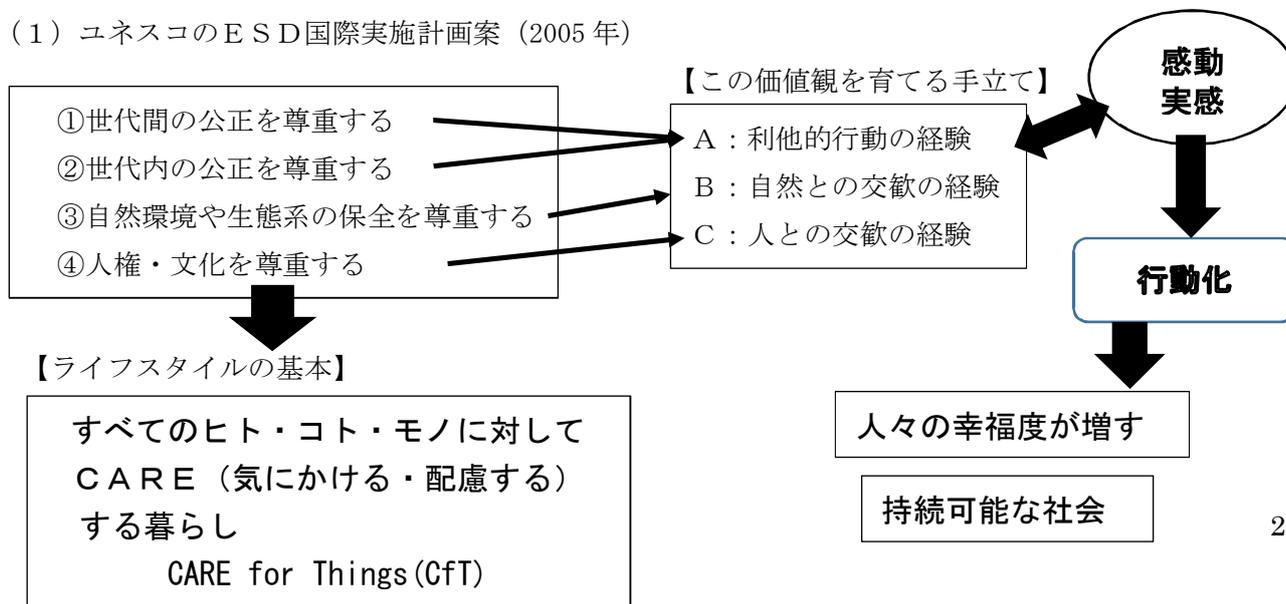
- ・ESDは人々の社会づくりに関する価値観と行動の変容を促す教育
- ・ESDはSDGsの達成に貢献する教育（日本ユネスコ国内委員会）
→ ESDを学んだ人は、SDGsの達成に貢献する行動をする。
→ 何を学んだのかをSDGsの観点から振り返り意義づけを行う
- ・SDGsの達成された社会≒持続可能な社会
→ 持続可能な社会は、そういう人々が創っていく社会（誰かから与えられるものではなく）

問い1. あなたがされている持続可能な社会づくりに関係する行動は何ですか？

→ その行動はSDGsのどの目標と
関係がありますか？

2. ESDで育てたい価値観について

(1) ユネスコのESD国際実施計画案（2005年）



(2) ソマティック・マーカーを育てる

人は日常生活で直面する多くの出来事を「直感的」に判断して行動している。あるいは、多くの選択肢から直感的に選び出している。

ソマティック・マーカーとは、スルーすることなく立ち止まらせる（気づかせる）脳内信号。

◇ソマティック・マーカーによって喚起される感情が行動化を誘発する。（無意識に）

◆ソマティック・マーカーの大半は、学習と経験により、脳内でつくられたものである。

みなさんは、持続可能な社会づくりに関わるソマティック・マーカーを身につけてください。

3. 学校教育等でのSDGsを踏まえたESDの展開

(1) 目標：ESDのソマティック・マーカー、価値観、視点、資質能力を育てる

(2) ESDの視点

対象となるモノ・コト・ヒトを注意深く見るときの視点がESDの視点です。

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある	多様性に乏しい、画一的
②相互性	つながっている、循環している	孤立している・循環していない
③有限性	もったいないの文化がある 物を大切に長く使う文化がある	使い捨てがあたりまえになっている 大量生産・大量消費の文化がある
④公平性	世代内と世代間を考えている	不公平、今さえ、自分さえよければいい
⑤連携性	分け隔てなく、なかまづくり	なかまはずれをしている、排除している
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放し

◇「多様性」「相互性」「有限性」は社会環境や自然環境を評価する視点です

「公平性」「連携性」「責任性」は人や集団の行動や意思決定を評価する視点です。

(3) ESDの資質能力

- ・クリティカル・シンキング（物事を問い直し、新たな方法を見いだす力）
- ・システムズ・シンキング（物事を総合的にとらえる力）
- ・長期的思考力（先のことを見通す力）
- ・コミュニケーション力（人の意見を聞いたり、自分の意見を発信したりする力）
- ・協働的問題解決力（他の人と協力して最後まで取り組む力）

(4) 展開

◇指導者のやるべきこと

- ①ソマティック・マーカーでピンと来たものを調べる
 - ・文献調査（インターネットだけでなく）
 - ・現地調査（五感を使って）
 - ・インタビュー調査（現地の人に聞いて発見）

教材研究

指導者はESDのソマティック・マーカーに加えて、授業のネタに関するソマティック・マーカーも鍛える必要あり

※指導者が「面白い」と思ったものだけが、子どもを揺さぶる「いい授業のネタ」になる。

- ②子どもの関心を高める導入を工夫する。
- ③ゲストティーチャー・施設見学などを依頼する。
- ④学習者の学びを支援する（個別の評価と応答的なアドバイス）

授業（単元）に入る前にアンケートを行い、実態を把握すること

⑤事後のアンケート実施し、事前と事後の子どもの変容を把握し、授業改善につなげる。

◇問題解決型の学習と子どもの思考の流れ

①ソマティック・マーカーで「？」や「！」 気づく

②その「こと・もの・ひと」をESDの視点で検討するクリティカル・シンキング） 課題づくり

③仮説の作成と仮説にもとづく調査活動・調査結果のまとめ（システムズ・シンキング）

④調査結果を踏まえた話し合い（コミュニケーション力・長期的思考力）

⑤解決策の策定と発信・行動化（協働的問題解決力）

①～⑤の繰り返して育つESDの価値観とそれに基づくソマティック・マーカー

4. 社会教育等（単発研修）でのSDGsを踏まえたESDの展開

A：利他的行動の経験、B：自然との交歓の経験、C：人との交歓の経験

ができる楽しい体験的な活動を通して、ソマティック・マーカーや価値観を育てる

→ ESD-SDGs 関心層を増やす → ESD-SDGs が社会のデフォルトに

→ 社会の変革（持続可能な社会は誰かに作ってもらうものではなく、自分たちで創る）

5. まとめ：ESDの基本

①人を動かす力は知識よりもむしろ情動・感情にあることから、感動や実感をともなう体験的な学習活動が大切。

②地域社会の教材化は、学習の切実感を増す、体験的な学習による実感を得やすい。

③よりよい社会づくりに努力する人と出会うことで、あこがれ、当事者意識を喚起する。

④地域社会の教材化には、学校外の協力が必要となるので、日常的に信頼関係を築く。

・自分からESDに関わるイベントや活動に飛び込み、知り合いを増やす。

⑤1時間の授業で子どもを育てる→単元で育てる→1年間で育てる→○年間で育てる

という発想で、カリキュラムを作成し、年度末には修正する。

⑥学ぶ仲間をつくって、刺激し合う。

・他の地域に発信する、交流する。なかまを増やすと楽しくなる。

1年間、お疲れ様でした。

3月25日（水）15時から学長室において、ESDティーチャー認定証授与式が行われます。

奈良ESD連続セミナーにご参加いただきました皆様、ご出席くださいますよう、お願いいたします。